

三重県護国神社奉賛会報

第七十六号



明治天皇御製 (明治三十五年)

たちかへる年の朝目に 梅の花

かおりそめけれ ゆきまなからに

御英靈遺徳顕彰祭

平成二十二年度

三重県護国神社奉賛会総会開催

平成二十二年十月十六日午後二時より総会に先立ち拝殿に於いて『御英靈遺徳顕彰祭』を斎行、乙部奉賛会長の玉串拝礼に合わせ、参加者全員が御英靈に感謝の誠を捧げ参拝した。

祭典終了後、南参集室に於いて総会が開催され会長挨拶の後、前田理事(海交会会長)が議長となり議事を進め、前年度の事業報告及び決算、本年度事業計画案及び予算案等議案はすべて承認いただいた。

最後に原宮司が御礼の挨拶を述べ、総会は滞りなく閉会した。



〔御悔み〕

長年、奉賛会理事を務めて頂いた前田義一理事が旧臘お亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

会費納入のお願い

新年度『平成二十二年度』(平成二十二年九月一日～翌年八月三十一日迄)に入りましたので、新年度会費を納入頂きますようお願い申し上げます。

尚、納入の際は奉賛会専用の振込用紙をご利用下さい。

※送金手数料は奉賛会で負担いたします。

年度会費 正会員 二千元

特別会員 一万円

奉賛会入会のご案内

奉賛会は護国神社の御英霊を恒久的に奉慰奉賛していく事を目的とし結成され、多くの方々よりご賛同を賜って参りましたが、会員数が年々減少しているのが現状です。

そこで、一般有志の方の入会を進め、会員の増加を図りたく、会員よりのご紹介を宜しくお願い申し上げます。

入会ご希望の方は直接神社へお越し頂くか、奉賛会事務局までお知らせ下さい。

三重県護国神社内 奉賛会事務局

☎〇五九一二二六―二五五九

——英霊の言乃葉——

出撃にあたり

海軍大尉 水知 創一 命



回天特別攻撃隊「轟隊」

大正十二年十月二十九日生

昭和二十年七月十六日没

海軍第四期兵科予備学生

兵庫県出身 二十一歳

母上様

私こそ身はたとへ朽ちるとも、永遠に母上をお守りします。私に万一のことがありましても、決して髪など切らず、笑つてゐて下さい。昭子はじめ弟妹が可哀想です。まだまだ慎二もゐることで、もつともつと気を強く持つて元氣にお暮らし下さい。(中略)私の母上へのお願ひは、朗らかに呑気に暮らしていただきたいことです。

創一

昭子様

昭子は何んといつても母上が一番頼りにしてをられるのだから、皆なをよく導いて極力母上に元氣をつけて上げて下さい。兄がお前に望むのはただそれだけです。いま一度言ひます。母上に元氣をつけて上げて下さい。昭子の朗らかな呑気な性質を母上にうつして、皆んな元氣に、明るい生活をして下さい。早くよい人(私のかはりに母上の面倒を見るやうなやさしい人)をみつけ、一日も早く母上を安心させてあげて下さい。

創一

慎二様

急に休暇が許され、又余りにも短かつたので呼ぶ事が出来ず悪い事をしました。慎二は私のたつた一人の弟です。早く立派な人になつて父上、母上を喜ばしてあげて下さい。兄の様な親に心配を掛けてばかりゐる様な男になつてはなりません。

今に兄達が必ず敵をやつつけますから後は、慎二達が一生懸命勉強して日本をますます良い国にして下さい。では元氣でしつかりやつて下さい。

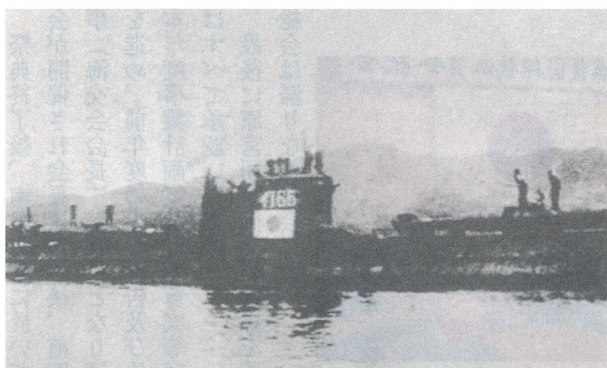
創一

【いざさらば我は

みくにの山桜】

【英霊の言乃葉(9)】

より転載



光基地を出撃する伊号一六五

【解説】

水知創一命は昭和二十年六月十五日、回天特別攻撃隊「轟隊」隊員として、伊号第一六五潜水艦に乗り込み光基地を出撃。七月十六日、マリアナ東方海域にて戦死。

回天は、日本海軍が開発した九三式酸素魚雷を利用し、昭和十九年二

月末より試作が開始された。秘匿名称「(金物)」と呼ばれ、九三式酸素魚雷をほとんどそのまま利用し、これに外筒、操縦設備そして双眼鏡を設けて有人化し、さらに頭部に約一五トンの爆薬を装填した。最初の計画では脱出装置を設けられていたが、実用化の段階で取り外されたという。試作品は十九年七月に完成し、テスト航行で十分実用に耐えることが分かり、翌日には「(金物)」という秘匿名称を廃して制式に特攻兵器「回天」として採用された。

「回天」による作戦は昭和十九年十一月ごろから行なわれるようになったが、その方法は、親潜水艦が四基から六基ずつ「回天」を搭載して作戦海面に進出し、そこから搭乗員が「回天」に乗り込み出撃していくというものであった。

【戦記シリーズ三九より転載】

